

平成26年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 1

主要事業名	学校図書館の整備					作成日	H27.7.21
						担当課名	鹿嶋っ子育成課
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	市民サービス	管理経費
						建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成		基本目標	4	人が輝くかしま	
体系項目	(2)	生きる力の育成		基本政策	7	学び楽しむまち	
個別施策	③	読書活動の充実		基本施策	2	学校教育の充実	

根拠法令等	子どもの読書活動の推進に関する法律，学校図書館法
-------	--------------------------

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	学校図書館の充実を図るため，平成19年度の波野小学校を皮切りに学校図書館の環境整備（改修工事や図書情報のデータベース化など）及び司書の配置を順次行い，平成26年度時点で，小学校では全12校（平成24年度），中学校では5校中3校（平成25・26年度）が整備及び司書配置（兼務も含む）がされている。 ※市内小中学校15校（鹿島中・大野中を除く）に10名の図書館司書（嘱託職員）を配置
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

目的（事業の目指すところ）	学校図書館を整備することにより，児童生徒の自主的な学習活動を支援するとともに，積極的な読書活動を充実させ，豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の環境整備 蔵書図書の充実 中央図書館との連携
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	平成19年度の「新学校図書館図書整備5か年計画」が平成23年度で終了し，平成24年度から今までの「学校図書館図書整備5か年計画」の内容（毎年200億円の措置）に加え，学校図書館への新聞配置として毎年15億円，学校司書の配置として毎年150億円が地方交付税として措置されることとなった。
--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	26年度 (実績)	27年度 (予定・見込)	28年度 (予定・見込)	29年度 (予定・見込)	30年度 (予定・見込)
		学校図書館の整備	校	2 (15/17)	0	2 (17/17)	0
	学校図書館司書の配置	人	10	10	11	13	13

投入コスト	全体計画		26年度 (決算額：千円)	27年度 (予算額：千円)	28年度 (計画額：千円)	29年度 (計画額：千円)	30年度 (計画額：千円)
	事業経費	報酬・共済費等	22,337	22,295	22,295	23,679	23,679
	需用費（消耗，印刷・修繕）	2,531	799	2,799	799	799	
	役員費	79	96	96	108	108	
	委託料（資料整備・人材派遣）	7,942	1,019	8,000	0	0	
	使用料及び賃借料（電算借上）	11,176	12,193	12,193	13,205	13,205	
	工事費	2,480	0	2,600	0	0	
	備品（管理・施設用備品）	7,257	1,116	8,200	1,700	1,700	
	備品（図書：一括，リクエスト）	14,325	13,024	14,624	13,624	13,624	
	合計	68,127	50,542	70,807	53,115	53,115	
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他（参加者負担金）						
	一般財源	68,127	50,542	70,807	53,115	53,115	
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	1	1	1	1	1	
	その他職員（再任用（短），嘱託職員等）	11	11	11	12	12	

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名: 学校図書館の整備

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①市内12校の小中学校図書館の運営 【比率: 40%】	全小中学校に図書館司書を配置し、スムーズな図書の出し入れや児童の要望等、サポートに対応する。	学校図書館の充実により、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。	学校図書館の円滑な運営を進めるため、公共図書館司書を含む学校図書館司書同士の連携を密にし、定例会議などで課題やその解決事例などの情報交換を行いながら各校とも円滑な運営が図られた。	図書館司書等の活動により円滑な運営が図られ、読書の習慣化や大切さのみならず、情報収集などを通じて自ら学習する方法が習得できるなど、学校図書館の定義である健全な教育の育成が図られてきている。	読書に興味を持ってもらうこと及び学校図書館に足を運んでもらうための様々な企画や取組みを行った。 ※ゲーム感覚での読書の推進や見つけやすい環境づくりなど	個別事業実績評価点: 30.2 [課題] 平成24年度に全小中学校に図書館司書が配置され、学校図書館の充実が図られてきている一方で、活用する子どもたちについては、学校や学年によって利用頻度に差がある。
②市内中学校、新規2校の学校図書館の開設 【比率: 30%】	鹿野中学校及び平井中学校の学校図書館の開設。	小学校で身につけた読書習慣や読書力を継続させ、情報収集や自立的学習をサポートする場を提供する。	鹿野中学校及び平井中学校の学校図書館整備工事を行い、10月にリニューアルし開館した。	学校図書館がリニューアルにより学校図書館へ興味を持つ生徒たちが増え、読書への関心や学びの場としての活用が図られた。	次年度以降も両校の学校図書館が今年度と同様に活発に図られるよう昨年リニューアルした高松中学校を参考にしながら、より利用しやすい図書館の検討を進めていく。 ※図書館だよりなどでの特集企画など	個別事業実績評価点: 19.5 [課題] 平成25年度の高松中学校、平成26年度の鹿野中学校、平井中学校の整備及び図書館司書の配置がされ、学校図書館の充実が図られてきている一方で、小学校同様活用する生徒については、学年や男女によって利用頻度に差がある。
③司書教諭、学校図書館司書、公共図書館司書による研修会開催 【比率: 30%】	司書教諭、学校図書館司書、公共図書館司書による研修会等開催。	合同での研修や意見交換等を通じて、より専門的な知識を習得及び共通認識をもつことで、利用しやすい学校図書館の推進を図る。	三者合同での研修等については、開催できなかったが、「司書教諭と学校図書館司書」及び「学校図書館司書と公共図書館司書」での研修はそれぞれで開催できた。	研修を開催することで、それぞれの立場での現状や課題、対応策などの情報交換ができた。これらをもとに児童生徒にとってよりよい学校図書館のあり方についての共通認識が図られた。	情報交換で得たものを参考にそれぞれの施設にとってよりよい図書館運営に努めた。また、人事交流を行い、違った立場から運営について意見提言できるよう改善した。	個別事業実績評価点: 22.7 [課題] 学校図書館司書の増員(1校1人を目標)し、より良い学校図書館運営に努めなければならない。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	72.4	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	B	
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 全小中学校の学校図書館整備及び図書館司書(兼務含む)の配置が平成24年度に完了し、平成25年度から高松中学校を皮切りに平成26年度は鹿野中学校及び平井中学校の整備が完了した。残り2校についても順次整備を進めていく。 整備面での充実とあわせ、学校図書館司書等の活動により円滑な運営が図られ、読書の習慣化や、情報収集及びそれらを活用する能力、豊かさの育成を身につけることにつながってきているため、今後も購入図書の充実や利用しやすい学校図書館づくりに努めていきたい。								
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	残りの中学校2校の早期整備及び司書の配置を図り、市内全小中学校での読書の定着を図ってきたい。						
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 学校図書館の整備及び学校図書館司書の配置により円滑な運営が図られている一方で、活用する人と活用しない人の差が出ている。今後も学校図書館づくりに努めていくためには、1校1人の司書の配置が望ましいため、残りの施設整備とあわせて学校図書館司書の増員が必要。								
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 利用頻度の差の解消を図るとともに、新年度予算編成時において、学校図書館司書の増員の要望をする。								

平成26年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 2

主要事業名	フロンティア・アドベンチャー事業				作成日	H27.7.22	
					担当課名	社会教育課	
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	自治事務 (任意)	○	市民サービス 建設事業	管理経費 その他	
事業期間	単年度	○ 年度繰返し	期間限定	年度から 年度まで			

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ			②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成	基本目標	4	人が輝くかしま
体系項目	(2)	生きる力の育成	基本政策	7	学び楽しむまち
個別施策	(4)	体験学習の充実	基本施策	4	青少年の健全育成
根拠法令等	—				

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	フロンティア・アドベンチャー事業は、文科省が青少年の心の豊かさやたくましさなどを育むことを目的として、昭和63年から開始した事業である。当市でも、青少年の健全育成や次世代を担う人材の育成を目指して、平成2年度から、24年間継続して実施している事業である。
目的（事業の目指すところ）	フロンティア・アドベンチャー事業は、自然の中で、10泊11日という長期集団宿泊体験の機会を提供し、子ども達がさまざまな体験活動を通して、人間関係やホームシック等、多くの困難を乗り越え、生きる力（協調性・自立性・課題発見能力・問題解決能力）を身に付け、成長することを目的とする。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・サブリーダー（高校生）、リーダー（一般指導者）、看護師の確保 ・企画運営会議、実行委員会、指導者推進委員会の実施 ・現地視察、充実した体験プログラムの構築 ・サブリーダー、リーダー、看護師合同研修会及びサブリーダー研修会の実施 ・保護者説明会の実施
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	保護者への事後アンケート調査では、参加後「協調性が身に付いた」「自分のことは自分で行ったり、進んで手伝いするようになった」等の回答が多く得られている。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (予定・見込)	29年度 (予定・見込)	30年度 (予定・見込)
		応募人数（募集人数70人）	人	6年生48名 5年生31名	6年生61名 5年生32名	6年生60名 5年生30名	6年生60名 5年生30名
	事業全体の満足度（満足している）	%	83.3	85.0	85.0	85.0	85.0

投入コスト	全体計画		26年度 (決算額：千円)	27年度 (予算額：千円)	28年度 (計画額：千円)	29年度 (計画額：千円)	30年度 (計画額：千円)
	事業経費	事業委託（実行委員会へ）		2,230	2,500	2,500	2,500
合計		2,230	2,500	2,500	2,500	2,500	
財源内訳		国県支出金					
	地方債						
	その他(参加者負担金) 一般財源		2,230	2,500	2,500	2,500	2,500
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		3	3	3	3	3
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		2	2	2	2	2

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:フロンティア・アドベンチャー事業

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①フロンティア・アドベンチャー事業の実施 【比率: 100%】	期間:7月28日~8月7日(10泊11日) 参加人数:70人(5・6年生) ・現地視察(1回) ・企画運営会議(3回) ・実行委員会(3回) ・指導者推進委員会(1回) ・サブリーダー、リーダー、看護師合同研修会の実施(1回) ・サブリーダー研修会実施(2回) ・保護者説明会(1回)	実施後に保護者アンケートを実施し、事業全体の満足度80%以上を目指す。	期間:7月28日~8月7日(10泊11日) 募集人数:70人(5・6年生) 参加人数:69人(5・6年生) ・現地視察(1回) ・企画運営会議(3回) ・実行委員会(3回) ・指導者推進委員会(1回) ・サブリーダー、リーダー、看護師合同研修会の実施(1回) ・サブリーダー研修会実施(2回) ・保護者説明会(1回)	事業実施後に保護者アンケート実施(回収率78.3%) ・お子さんの生活などに何らかの変化があつたかについては、85.2%があつたと回答。 ・事業全体に対する満足度においては、ほぼ100%が満足と回答。 ・事業継続については100%が継続と回答。	事業を安全に行うため、現地視察を行い、前回までの課題や反省点を改善した。また、事前研修や安全な体験学習プログラムの作成に努めた。	個別事業実績評価点: 89.5 [課題] この事業が今後子どもたちの成長過程において、どのような影響を与えたかその効果について検証していく必要がある。
【比率: %】			評価: B	評価: A	評価: A	個別事業実績評価点: [課題]
【比率: %】			評価:	評価:	評価:	個別事業実績評価点: [課題]

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	89.5	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 今日、子どもたちは、直接体験が不足している現状であり、子どもたちに生活体験や自然体験などの体験活動の一層の充実が極めて重要な課題となっている。24回を継続して行っているフロンティア・アドベンチャーは、こうした課題解決のためにも有効な事業と考える。							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	豊かな人間性や、自ら学び、自ら考える等の生きる力の基盤作りが必要である。					
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 隊員として参加した子どもたちが、サブリーダーや成人指導者としてこの事業に戻ってきている。この事業が社会人として成長するうえで、どのような影響を与えたかその効果について検証していく必要がある。							
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 平成27年度は、鹿嶋市市制施行20周年となる。これに併せてアドベンチャー同窓会を開催し、アンケート等も併せて実施する。							